



ALSO プロバイダーコース ～鳥取大学コース～

Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである。またプライマリケア医だけでなく産婦人科の研修医を対象とした訓練でもある。1991年にACLSとATLSに基づいて、ウィスコンシン州の一般診療医師二人がALSOを考案した。1993年にコース権利はAmerican Academy of Family Physicians (AAFP - 米国家家庭医学会) によって認可され、現在全米ではほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOの受講を義務づけられている。また米国の家庭医レジデンシープログラムの内、78%がALSOをプログラムに導入している。さらにALSOコースは世界的に普及活動が行われており、現在までに、63カ国でプロバイダーコースが開催され、16万人がALSOコースを完了した。

コースは、レクチャー、症例検討、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップである。筆記試験とマネキンによる実技試験（メガデリバリー）がコースに含まれている。重要レクチャーは妊娠初期の合併症、難産、妊娠の内科的合併症、妊娠後期の性器出血、分娩後大出血、早産、前期破水、妊婦の蘇生法、そしてマタニティケアにおける安全性の8つ。少人数グループによる重要ワークショップは肩甲難産、胎位・胎向異常、鉗子と吸引、分娩中の胎児監視、重要な症例の5つ。プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合は、参加者は5年間有効の認証を受けることができる。

日本では2008年11月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、約7000名がALSOコースを修了した。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師、そして医学部生などであり、現在あるいは近未来の日本の周産期医療体制において、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加している。産科救急医療は、産婦人科医だけではすでに成り立たない状況になりつつあることは周知の事実である。日本全国のすべての地域でできるかぎり同じレベルの産科医療を維持するには、産科医療に関わりたいという志を持った人たちをトレーニングする場を多く提供し、最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要がある。まさにその足がかりとなるトレーニングコースがALSOであり、今後日本で普及していくことを願ってやまない。

ALSO-Japan

セミナー：ALSO プロバイダーコース ～鳥取大学コース～

主催：鳥取大学 医学部 女性診療科

共催：NPO 法人周生期医療支援機構 (ALSO-Japan)

開催場所：鳥取大学医学部附属病院 第2中央診療棟4階 (鳥取県米子市)

日時：平成29年11月11日(土)9:00～19:00、12日(日)8:30～14:00

費用：30,000円

定員：20名

申込方法：氏名、職種、所属、連絡先(携帯電話、パソコンのE-mail)を明記の上、
下記のE-mailにお申し込み下さい。9月11日正午より受付開始です。

定員に達しましたので募集は終了いたしました

E-mail：machokato@oki-hospital.com (隠岐病院 加藤一朗)